



平成30年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年7月12日

東

上場会社名 株式会社ジンス 上場取引所
 コード番号 3046 URL <https://corp.jins.com/jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田中 仁
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部事業統括リーダー (氏名) 山脇 幹也 (TEL) 03-5275-7001
 四半期報告書提出予定日 平成30年7月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年8月期第3四半期の連結業績(平成29年9月1日～平成30年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年8月期第3四半期	39,852	7.3	4,200	7.5	3,860	3.0	2,235	6.6
29年8月期第3四半期	37,136	10.5	3,906	79.8	3,749	78.8	2,097	87.6

(注) 包括利益 30年8月期第3四半期 2,220百万円(0.6%) 29年8月期第3四半期 2,207百万円(128.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年8月期第3四半期	93.26	—
29年8月期第3四半期	87.50	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年8月期第3四半期	31,150	18,873	60.6
29年8月期	30,354	17,515	57.7

(参考) 自己資本 30年8月期第3四半期 18,873百万円 29年8月期 17,515百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年8月期	—	0.00	—	36.00	36.00
30年8月期	—	0.00	—		
30年8月期(予想)				48.00	48.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年8月期の連結業績予想(平成29年9月1日～平成30年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	54,444	7.9	6,177	14.3	5,721	9.4	3,334	20.5	139.03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	30年8月期3Q	23,980,000株	29年8月期	23,980,000株
② 期末自己株式数	30年8月期3Q	3,491株	29年8月期	3,491株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	30年8月期3Q	23,976,509株	29年8月期3Q	23,976,509株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理性があると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成29年9月1日～平成30年5月31日)における国内経済は、好調な企業業績に伴う設備投資の増加、雇用環境の改善、消費マインドの持ち直しなどを背景に緩やかな回復基調が続いております。一方、世界経済に目を向けると、米国における政策運営の行方、中国経済の動向及び地政学的リスクの存在など、我が国の景気が下押しされる懸念もあります。

国内眼鏡小売市場(視力矯正眼鏡)は、平成28年3月から継続していた前年同期比マイナスの傾向が持ち直し、足元では改善の兆しが見受けられます。

このような市場環境の中で、当社グループのアイウェア事業では、予てより経営課題と掲げている商品戦略の再構築、店舗オペレーションの改善などの取り組みを継続的に推進しております。また国内アイウェア事業において更なる成長を実現していくためには、商品力の向上及び接客力、店舗マネジメント力の強化が必要不可欠と認識しており、引き続きこれらの諸課題に対してより一層注力してまいります。店舗戦略につきましては、従来のショッピングモール形態での出店に加え、郊外ロードサイド型店舗の開発に注力し、その効果が今後顕在化していくものと考えております。店舗展開につきましては、当第3四半期連結会計期間末におけるアイウェア専門ショップの店舗数は、国内直営店343店舗(出店23店舗、退店3店舗)、中国直営店125店舗(出店26店舗、退店4店舗)、米国直営店4店舗(出店、退店なし)の合計472店舗となりました。

売上高総利益率につきましては、国内アイウェア事業は、売上高に占めるセール構成比が増加する等、前年同期と比べ低下したものの、海外アイウェア事業は、調達先の見直し等により大幅に上昇し、結果として76.1%と前年同期比0.3ポイントの改善となりました。

売上高販売管理費比率につきましては、売上高は堅調に推移しているものの、広告宣伝費が増加したこと等により、65.6%と前年同期比0.3ポイントの増加となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高39,852百万円(前年同期比7.3%増)、営業利益4,200百万円(前年同期比7.5%増)、経常利益3,860百万円(前年同期比3.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益2,235百万円(前年同期比6.6%増)となりました。

なお、海外連結子会社(海外アイウェア事業)につきましては、平成29年7月1日～平成30年3月31日を第3四半期連結累計期間として取り込んでおります。

セグメント業績の概況は、次のとおりであります。

セグメント別の売上高

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年9月1日 至平成30年5月31日)	構成比	前年同期比
国内アイウェア事業	32,631百万円	81.9%	5.2%
海外アイウェア事業	5,263百万円	13.2%	39.2%
雑貨事業	1,957百万円	4.9%	△16.4%
その他	0百万円	0.0%	△20.7%
合計	39,852百万円	100.0%	7.3%

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 「その他」の区分は、全社部門等であります。

〈国内アイウェア事業〉

国内アイウェア事業につきましては、上半期は秋冬物の新作「JINS×TIME」シリーズの販売不振、売上に占めるセール構成比の増加及び低価格商品への偏り等の影響もあり、既存店売上高は前年同期を僅かながら下回る状況であったものの、コラボ商品が好調だったこと等総じて販売本数の伸びが顕著でありました。下半期に入ってから、1本で簡単にメガネにもサングラスにもなるアイウェア「JINS Switch (ジズ・スイッチ)」等が順調な売れ行きだったこと、また平成29年3月より導入した3プライス制の新価格戦略が1年経過し一式単価が持ち直してきたこと等により、当第3四半期連結累計期間における既存店売上高は前年同期を上回ることとなりました。

さらに、平成29年11月にリリースした「JINSオリジナルアプリ」がお客様より好評を頂き、平成30年5月には累計ダウンロード数が120万件を突破しました。また、平成29年12月には1日使い捨てコンタクトレンズ「JINS 1DAY」の発売によりコンタクトレンズ事業に参入する等、新たな取り組みを開始しております。

店舗展開につきましては、概ね計画通りに進捗し、国内直営店舗数は343店舗となりました。

以上の結果、国内アイウェア事業の業績は、売上高32,631百万円(前年同期比5.2%増)、営業利益4,318百万円(前年同期比6.6%増)となりました。

〈海外アイウェア事業〉

海外アイウェア事業につきましては、中国における競争環境が激しさを増しているものの、模倣店との差別化を浸透させながら、既存店売上高が回復基調にあること及び売上高総利益率が改善したこと等から同地域における黒字積み増しが図れております。

米国においては、米国向けデザイン商品の投入及び店舗オペレーションの改善等により既存店売上高が大幅に増加し、また、レンズの調達先変更により売上高総利益率も上昇したことで収益構造が改善しております。

なお、平成30年3月にフィリピンにて小売店舗を多数運営しているSuyen社とフィリピンにおけるフランチャイズ契約を締結し、平成30年4月にフィリピン第1号店を開店する運びとなりました。当社の海外進出は4地域目、フランチャイズ形態での海外出店は初となります。

店舗展開につきましては、海外直営店舗数は129店舗となりました。

以上の結果、海外アイウェア事業の業績は、売上高5,263百万円(前年同期比39.2%増)、営業利益55百万円(前年同期は営業損失224百万円)となりました。

〈雑貨事業〉

雑貨事業につきましては、メンズ雑貨事業、レディース雑貨事業の収入により構成されております。

雑貨事業を取り巻く環境は、通販サイト及び中古市場の台頭等により厳しさが増しており、当社グループの業績も少なからずその影響を受けております。市況の変化に対応できるよう店舗オペレーション及び商品戦略の見直しを行い、業績の回復に注力してまいります。

店舗展開につきましては、メンズ雑貨専門ショップ21店舗(出店1店舗、退店なし)、レディース雑貨専門ショップ19店舗(出店2店舗、退店3店舗)となりました。

以上の結果、雑貨事業の業績は、売上高1,957百万円(前年同期比16.4%減)、営業損失174百万円(前年同期は営業利益79百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の資産、負債及び純資産の状況は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	平成29年8月期末 (平成29年8月31日)	当第3四半期連結 会計期間末 (平成30年5月31日)	増減	増減率(%)
総資産	30,354	31,150	796	2.6
負債	12,838	12,277	△561	△4.4
純資産	17,515	18,873	1,357	7.8

(イ)資産

流動資産は、15,259百万円となり、前連結会計年度末に比べ436百万円減少いたしました。

これは主に、受取手形及び売掛金が491百万円、商品及び製品が954百万円増加したものの、現金及び預金が2,237百万円減少したことによるものであります。

固定資産は、15,817百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,258百万円増加いたしました。

これは主に、新規出店等に伴い建物及び構築物等の有形固定資産が1,164百万円増加したことによるものであります。

繰延資産は、73百万円となり、前連結会計年度末に比べ24百万円減少いたしました。

これは主に、開業費の償却を行ったことによるものであります。

以上により、総資産は、31,150百万円となり、前連結会計年度末に比べ796百万円増加いたしました。

(ロ)負債

流動負債は、8,766百万円となり、前連結会計年度末に比べ561百万円減少いたしました。

これは主に、未払法人税等が653百万円減少したことによるものであります。

固定負債は、3,510百万円となり、前連結会計年度末に比べ0百万円減少いたしました。

これは主に、長期借入金が244百万円減少したものの、資産除去債務が236百万円増加したことによるものであります。

以上により、負債合計は、12,277百万円となり、前連結会計年度末に比べ561百万円減少いたしました。

(ハ)純資産

純資産合計は、18,873百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,357百万円増加いたしました。

これは主に、配当金の支払により863百万円減少したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益2,235百万円を計上したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年8月期通期の業績予想につきましては、平成30年4月5日に発表いたしました業績予想から変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,860	4,622
受取手形及び売掛金	3,305	3,796
商品及び製品	4,310	5,264
原材料及び貯蔵品	196	242
その他	1,023	1,333
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	15,696	15,259
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,128	7,158
その他(純額)	1,764	1,899
有形固定資産合計	7,893	9,058
無形固定資産		
投資その他の資産	1,867	1,782
投資その他の資産		
敷金及び保証金	3,744	3,835
その他	1,054	1,141
投資その他の資産合計	4,799	4,977
固定資産合計	14,559	15,817
繰延資産		
開業費	98	73
繰延資産合計	98	73
資産合計	30,354	31,150

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年5月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,655	1,459
短期借入金	1,900	2,421
1年内返済予定の長期借入金	386	373
未払金及び未払費用	2,512	2,765
未払法人税等	1,360	706
資産除去債務	20	20
その他	1,491	1,018
流動負債合計	9,327	8,766
固定負債		
長期借入金	1,560	1,315
資産除去債務	187	423
その他	1,762	1,771
固定負債合計	3,510	3,510
負債合計	12,838	12,277
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,202	3,202
資本剰余金	3,179	3,179
利益剰余金	11,167	12,540
自己株式	△1	△1
株主資本合計	17,547	18,920
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△32	△47
その他の包括利益累計額合計	△32	△47
純資産合計	17,515	18,873
負債純資産合計	30,354	31,150

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年9月1日 至平成30年5月31日)
売上高	37,136	39,852
売上原価	8,993	9,524
売上総利益	28,142	30,327
販売費及び一般管理費	24,236	26,127
営業利益	3,906	4,200
営業外収益		
受取利息	3	5
受取賃貸料	15	8
補助金収入	15	—
その他	12	21
営業外収益合計	46	35
営業外費用		
支払利息	127	117
支払手数料	3	2
為替差損	32	33
不動産賃貸費用	—	187
開業費償却	25	26
その他	13	7
営業外費用合計	204	374
経常利益	3,749	3,860
特別損失		
倉庫移転費用	—	41
固定資産除却損	171	166
減損損失	216	—
店舗閉鎖損失	31	14
その他	13	5
特別損失合計	433	227
税金等調整前四半期純利益	3,315	3,633
法人税、住民税及び事業税	1,186	1,305
法人税等調整額	30	92
法人税等合計	1,217	1,397
四半期純利益	2,097	2,235
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,097	2,235

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年9月1日 至平成30年5月31日)
四半期純利益	2,097	2,235
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	109	△15
その他の包括利益合計	109	△15
四半期包括利益	2,207	2,220
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,207	2,220
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年9月1日至平成29年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内 アイウェア 事業	海外 アイウェア 事業	雑貨事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	31,014	3,780	2,339	37,135	0	—	37,136
セグメント間の内部 売上高又は振替高	74	—	—	74	—	△74	—
計	31,089	3,780	2,339	37,210	0	△74	37,136
セグメント利益又は損 失(△)	4,051	△224	79	3,906	0	—	3,906

(注) 1 「その他」の区分は、全社部門等であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「海外アイウェア事業」セグメントにおいて、米国旗艦店(カリフォルニア州サンフランシスコ市)の減損損失を216百万円計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成29年9月1日至平成30年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内 アイウェア 事業	海外 アイウェア 事業	雑貨事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	32,631	5,263	1,957	39,851	0	—	39,852
セグメント間の内部 売上高又は振替高	69	—	—	69	—	△69	—
計	32,700	5,263	1,957	39,921	0	△69	39,852
セグメント利益又は損 失(△)	4,318	55	△174	4,199	0	—	4,200

(注) 1 「その他」の区分は、全社部門等であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、「その他」で区分していた雑貨事業について、量的な重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。これに伴い、前第3四半期連結累計期間の数値を変更後のセグメント区分に組替えた数値で記載しております。